

政策評価書（要旨）（事後の事業評価）

事業名	テレスコープ弾機関砲の研究	担当部局	管理局開発計画課
政策分野	防衛装備の適正な維持及び管理（研究開発）	実施時期	平成15年1月～3月

<b>事業の内容</b> 高発射速度化、弾薬の収納効率の向上等を可能にするテレスコープ弾並びに外部駆動型機関砲に関する技術資料を得るための研究を実施した。	6	7	8	9	10	11	12	13	14	完了年度
	研試（その1）			研試（その2）			研試（その3）			14年度
	・試験用テレスコープ弾 ・エロージョン試験砲 ・砲尾作動基礎解析装置			・試験用テレスコープ弾 ・テレスコープ弾試験装置 ・試験用適応近接信			・試験用テレスコープ弾 ・外部駆動型テレスコープ機関砲			経費総額
			← 所内試験 →					← 所内試験 →		約22億円

<b>評価の内容</b> <b>事業の目的</b> 弾丸を薬きょう内に埋め込む構造とすることにより、弾薬長の短縮化による高発射速度化、弾薬の収納効率の向上等を可能にするテレスコープ弾（CTA）及びこれを射撃するための外部駆動型中口径機関砲に関する技術資料を得ることを目的とした。	<b>達成状況</b> 達成効果 ア コンパクト化を図ったテレスコープ弾及び外部駆動型機関砲により、初速、最大腔圧等の目標値を達成し、高発射速度による連発射撃を実現した。 イ エロージョン・メカニズム解明方法の考案とその解析を実現するとともに、クロムメッキ処理によりエロージョンが低減される効果を確認した。 ウ 砲口測合式の小型高性能時限信管機能を実現した。
---	---

<b>達成時期</b> 平成6年度から試作を開始し、段階的に試作を行い、平成14年度までに所内試験を終了した。 なお、当初計画は、13年度終了予定であったが、一部データ取得不良の原因究明及び対策のため半年間延長した。	<b>教訓等事項</b> 国内における射撃試験の実施に当たっては種々の制約があるが、本事業においては、官民の試験場等を有効に活用することによって効率的な実施が可能となり、所要の成果を上げることができたことを踏まえ、今後の研究においても、可能な限りその活用を図っていく。
--	---

<b>今後の対応</b> 本研究の成果を踏まえ、装輪装甲車にテレスコープ弾機関砲を搭載し、連射時の射撃特性及び車体動揺特性に関するデータを取得し、将来の車載化テレスコープ弾機関砲の実現に向けた取組を図っていく予定である。	別紙1：用語解説 別紙2：テレスコープ弾機関砲の概要 別紙3：テレスコープ弾（CTA）の概要
---	--